

植田博士 うえだひろし

活動地域：長野県小谷村

支援可能な地域：関東・甲信越・東海北陸（日程が合えば全国どこでも）

現在の所属（役職）：合同会社小谷やまびこ 代表社員

居宅介護支援事業所小谷やまびこ ケアマ

ネジャー

アドバイザー可能な分野

- ・地域福祉
- ・福祉と地域おこし分野の連携
- ・福祉事業の起業

地域での活動

●小谷村地域おこし協力隊（2012年5月～2015年4月）

小谷村における地域支援の取り組みの一つである「地域づくり応援団」として土谷（つちや）地区に配置され、地区内に居住しながら地域づくりの活動に取り組みました。

一年目は地区を訪問し住民の声を聴く、地区行事に参加する、農作業等への協力をするといった地道な活動をひたすら行い、地域に入ることに専念。二年目は一年目の活動をベースにしつつ、同時に社会福祉士としての経験を活かして地域福祉を活動テーマに掲げ、地区および村の地域福祉に資する様々な取り組みへと活動内容を広げていきました。

（福祉井戸端会議の定期開催、バリアフリー調査隊、有償ボランティア活動の先行事例の視察ツアー、精神保健ボランティアへの協力など。）三年目はそれまでの二年間の活動を継続しつつ、任期終了後の起業を見据えた準備を始めました。なお三年目の年の11月に発生した神城断層地震では活動地区も被災し、約一週間地区の避難所で運営係を務めました。短期間ではありましたが、それまでの2年半の地域活動で得た地区住民とのつながりを、結果的に最も活かすことができた機会となりました。

●「地域まめったいサミット」（2014年8月）

過疎が進む信州の山間地域であっても元気な取り組みをしている人たち、幸せな暮らしを

している（＝まめったい）人たちを訪ね交流し、自らの地域での活動に役立てることを目的に、毎年開催されている地域づくりイベントを小谷村で開催することを提案。実行委員の一人として企画・開催に携わりました。（主催：長野県社会福祉協議会／地域まめったいサミット実行委員会） このイベントの準備と開催を通じて、村内外の参加者同士のご縁が生まれたこと、小谷村で暮らすことの価値について村民の方が再確認することができた、といった声をいただきました。

●合同会社小谷やまびこ（2015年9月会社設立）

『限界集落になったとしても、安心して暮らし続けられる福祉のむらづくり』に取り組むことを目的に、合同会社を立ち上げました。会社のメインとなる事業として同年11月、ケアマネジャーの事業所「居宅介護支援事業所小谷やまびこ」の指定を受け事業を開始。2016年12月1日現在、要介護者17名、要支援者（委託）2名のケアプランを担当。個別のケース支援を通じて地域づくりに取り組んでいます。また小谷村および白馬村の地域ケア会議、事業者連絡会等にも参加し、両地域における地域包括ケアシステムのあり方について関係者と共に検討しています。

※ 所有資格：社会福祉士、介護支援専門員（ケアマネジャー）

自己PR 得意分野やアドバイザーの抱負

<協力隊の3年間は、定住し実践を続けるための「はじめの一步」>

高齢者、障がい者への生活・就業相談など、福祉分野での仕事の経験を活かし、地域おこし協力隊としては地域福祉をテーマに活動を続けました。3年間の任期中に得た地域でのつながりを活かし、村内で福祉事業を目的とする会社を立ち上げることができました。ケアマネ事業の開始から1年で19名の利用者契約をさせて頂くことができたのは、ひとえに協力隊活動を通じて得た住民とのつながりと、任期中から村内外の福祉関係者と協働してきた結果だと考えています。

<地域おこしは地域福祉>

介護分野では要支援者の総合事業への移行など転換期を迎えているほか、地域包括ケアシステムの構築が各地で取り組まれています。私も介護保険事業者として小谷・白馬両村の地域ケア会議に参加させていただいています。こうした福祉の地域づくりの流れと、地域おこし協力隊等の活動は決して無関係ではなく、少なからずリンクしてくるものと考えております。福祉の専門職のこと、地域おこしに携わる人のこと、両方の立場を知る立場から、双方が協働して地域づくりに取り組めるようなお手伝いができればと思い

ます。

<アドバイザー活動への抱負>

全国の地域おこし協力隊等で、福祉の専門職が活動している事例はほとんどないと思われます。既にご活躍中のアドバイザーの中にも地域福祉分野の方が少ないことから、これから地域福祉をテーマに活動したいと考えている他の地域の方たちへ、私の経験が少しでもお役に立つことがあれば幸いです。